

○参加 214 + 34（大阪）= 248名      うち新潟より4名（市川・小川・笹川・浅沼）

○期日 2023年8月9日（水）～13日（日）

○会場 近畿大学 東大阪キャンパス

○日程

8/9（水） 全国理事会

8/10（木） 開会式，総会，口頭発表，研究協議，ポスターセッション・展示，意見交換会

8/11（金） 記念講演会，シンポジウム，ポスターセッション・展示，現地研修・実験研修（一部13日まで）

○内容

〈全国理事会〉

・第78回東京大会について

・第79回新潟大会について

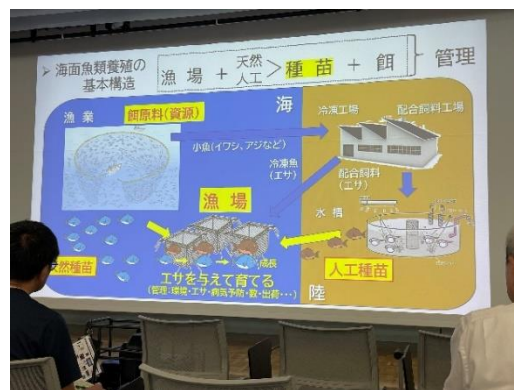
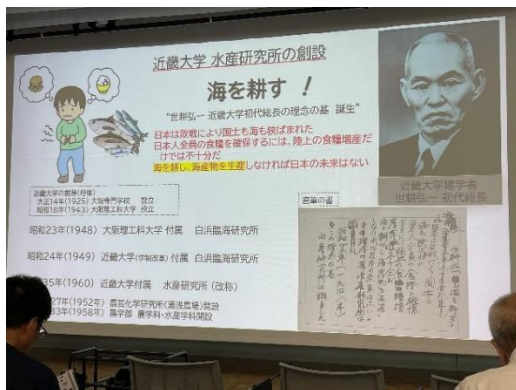
・大会ローテーションについて

2024（R6）東京 → 2025（R7）新潟 → 2026（R8）石川 → 2027（R9）愛知 ※以降未定

・今後、全国大会補助金（現在40万円）増額の予定。（50万円？）

〈記念講演〉

「近畿大学水産研究所の養殖研究と近大マグロ」近畿大学水産研究所所長・特任教授 升間 主計



〈研究協議〉

第1分科会：ICT活用

第2分科会：探究活動

第3分科会：学ぶ意欲を引き出す授業づくり

第4生命倫理

〈シンポジウム〉

「生徒の声をもとにこれからの生物教育を考える」

パネリスト 近畿大学 生物工学部遺伝子工学科 大学院生物理工学研究科 教授 三谷 匡

文部科学省 初等中等教育局 視学官 藤枝 秀樹

モデレーター 大阪教育大学附属高等学校池田校舎 教諭 岡本 元達

〈展示ブース〉

新潟大会PRブース設置。大会案内や佐渡のパフレットを配布。ブースに来た先生方に尋ねると、佐渡に来られたことがある人はごく少数。現地研修佐渡コースへの期待が高かった。

〈現地研修・実験講習〉※9コース中、4コースにそれぞれ参加。

山コース（大台ヶ原）〈2泊3日〉・・・参加：笹川

自然観察入門コース（箕面）〈1泊2日〉・・・参加：市川

大阪湾を味わいつくすコース～大阪湾沿岸の自然～ 〈1泊2日〉・・・参加：小川

天王寺動物園コース 〈半日〉・・・参加：浅沼

※自然観察入門コース（箕面）より



## ○大会に関する感想

### 〈運営面〉

- ・大阪は今回で5回目の開催。全国大会開催のノウハウを若手に引き継ぐ目的。
- ・以前と比べて、経費節約&簡素化の大会運営。開会式や講演会場も普通の大学講義室。ネームプレートや掲示物も節約。
- ・会場は、主催の大阪府高等学校生物教育研究会とつながりの深い近畿大学の全面協力により、無償借用。開会式での学長挨拶，記念講演講師，現地研修の3コース近畿大学で。

※新潟大会では、開志専門職大学を無償借用する。学長挨拶等の大学PRが必要。

- ・会場の近畿大学東大阪キャンパスが縦長ビル構造で、全体的にやや狭さを感じた。日程もキチキチで、参加者がゆっくり展示ポスターを見る時間が少ないのではと感じた。

※新潟大会では、ポスターセッションでは、なるべく多くの参加者からポスターを見てもらえるように工夫したい。

### 〈経費面〉

- ・広告費は以前のように集まらない模様。教科書問題集会社や実験機器会社がメイン。大阪大会：A4=5万円（3），A5=3万円（2），ブース=1万円（8）。

※新潟大会では、広告費を50万円見込んでいる。上記会社以外に、現地研修や実験講習に関わる県内企業や私立大学等からも協賛金を集めたい。

### 〈内容面〉

- ・研究協議及びシンポジウムは、時間制限の中、しっかり準備した内容で行われていた。ただ、やはり時間が短く、消化不良感が残った。

※新潟大会では、研究協議及びシンポジウムは実施しない。

## ★現地研修に参加した感想のまとめ★

- ・参加人数によるシミュレーションを行い、最少催行人数でも赤字にならない参加費設定をしている。
- ・準備と下見により、講師と一緒に参加者を楽しませる企画作りをしている。臨機応変に内容を修正。
- ・現地でしか味わえない内容を盛り込む。特に、宿泊研修は講師や参加者との交流も大切。
- ・その土地出身（子供の頃から）の先生の説明には、説得力がある。大阪ならではの話術のうまさも感じた。